

2 - 1 重点事業評価

事業名

多様なニーズに対応できる情報サービスの充実

(1) 指標① 各コーナーの図書合計貸出冊数

達成目標：3年後に30万冊（各年度1万冊ずつ増加）

	達成目標	実績 (達成率)	分析コメント
H30	28万冊	281、282冊 (100%)	大規模工事に伴う休館期間中に「くらしガーデン」の様替えを行ったほか、テーマ展示等に努めた結果、目標を達成した。
R1	29万冊	266、422冊 (92%)	2月までは、概ね目標どおり推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で3月がほぼ全日閉館となったため、目標達成できなかった。
R2	30万冊 <u>(※17万冊)</u>	206、842冊 (122%)	5月中旬まで閲覧室に利用者が入れず、その後も制限的な利用が続き実績は完全には回復しなかったが、資料を探しやすい表示の工夫やテーマ展示等に取り組んだ結果、目標を達成した。

「※」は、コロナ禍の影響を踏まえ、目標値を変更

指標② 情報資源の有効活用のためのパスファインダー、イベント関連資料リスト、PRチラシ等作成件数とギャラリー展示、館内のテーマ展示等の件数

達成目標：3年後に180件以上

	達成目標	実績 (達成率)	分析コメント
H30	160件以上	194件 (121%)	これらのツール等については、利用者の利便性向上、利用実績向上に資するものであるため、各担当が熱心に取り組んだ結果、実績が上がっている。
R1	170件以上	186件 (109%)	//
R2	180件以上 <u>(※120件)</u>	147件 (123%)	上半期は、新型コロナウイルス感染症対策に追われ、十分な取組ができなかったが、年度後半はホームページ上でも閲覧できるツール類の作成に取り組み、目標を達成した。

「※」は、コロナ禍の影響を踏まえ、目標値を変更

(2) 令和2年度の具体的取組（概要）

<指標①>

コロナ禍の影響による臨時休館中は、予約資料の貸出をエントランスホールで行った。再開後も利用制限やイベントの縮小等が続き、完全には回復していない状況が続いたが、以下の取組等により目標の達成を目指した。

◎感染症拡大防止対策を十分にとりながらの、貸出サービスの継続

◎閲覧室内のテーマ展示や書架内展示等の、探しやすい表示の工夫

◎資料紹介リスト・リーフレット等の作成・配布

◎感染症対応地方創生臨時交付金を活用した蔵書の充実（約1、300冊・一般書、専門書、障害者サービス用）と、相互貸借・遠隔地サービスを合わせたPR

<指標②>

各種テーマの資料展示を行うとともに関連資料リスト等を作成、配布するなど、図書館からの多様な情報発信に取り組んだ。また、県民の調査研究活動を支援するため、パスファインダーの作成、更新などによる調査相談機能の更なる充実を図った。

◎閲覧室内のテーマ展示（92件）

◎資料リスト等の作成・配布（10件）

◎パスファインダー等の作成、更新（38件）

◎音楽ライブラリープレイリストの作成（7件）

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価 (総合評価)	指標①、②ともに目標値を上回り、AA評価となった。	<p><指標①> 貸出冊数全体の推移と同様に、臨時休館明け（5月19日）から徐々に回復したが、くらしコーナーの旅行ガイドやオフィスコーナーのビジネス書は、コロナ禍による外出自粛の影響もあり利用が減少した。感染症防止対策を継続しつつ、臨時交付金による蔵書の充実を図り、目標の達成に向けて取り組んだ。</p> <p><指標②> 上半期は新型コロナウイルス感染症対策に追われ、十分な取組ができなかった。下半期もイベント等の通常開催は難しい状況であったが、パスファインダーの作成やテーマ展示等の取組に加え、音楽ライブラリープレイリストの作成やテーマ別ブックリストの充実等の新規取組によって実績を挽回し、目標の達成につなげた。</p>
----------------	---------------------------	--

AA 目標が十分に達成された。 A 目標が達成された。

B 目標がある程度達成された。 C 目標の達成が十分ではない。

※評価 AA：105%以上 A：100～104% B：95～99% C：94%以下

(4) 3年間の総括

指標①については、3年間を通して館内の利用環境の整備や、講演会・講座等の学習機会の提供、県施策等と連動した展示等の充実に取り組んだ結果、県民の生涯学習や課題解決の支援に貢献できた。次年度以降は、県の行政施策と連携した取組等を推進する。

指標②については、3年間を通して情報資源の有効活用のためのパスファインダー、イベント関連資料リスト、PRチラシ等作成件数とギャラリー展示、館内のテーマ展示等に取り組み、図書館からの情報発信の充実につながった。今後も、図書館からの情報発信の更なる充実に取り組む。

(5) 図書館協議会意見

① 館内のテーマ展示は、目について利用しやすい。コロナ対策に配慮しながらも、現在話題となっている内容の図書や、旬の図書、新潟に関する図書などを、インパクトのあるレイアウトで実施していただきたい。

② ギャラリー展示は、図書館に入ってすぐに目に入るものである。図書館の所蔵資料を展示するなど、博物館的な役割を果たしつつ、更なる充実が望まれる。鳥屋野潟公園に近い立地を生かし、本と自然を結びつけたパネル等の展示や催し、食文化や食と関連する図書の展示や催しも楽しいものになると思われる。ちょっとした楽しい企画も期待したい。

③ 令和2年度のパスファインダー作成が、2月末実績は0件、3月が8件、年度計8件である。素朴な疑問として、年間を通じて随時、新しいテーマで作成し公開する状況でないこと（年度末に作成・公開される状況）は適切なのか。2月末までに一件も作成・公開されていないのはなぜなのか。

④ HPの「調べものヒント集（パスファインダー）」について

(https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=532)

(a) 利便性の向上が必要である。

自動的にダウンロードされるPDFファイルを改めて開かないと読むことができない。見たいテーマをクリックするとすぐに表示されるようにしたほうが、利便性は高い。

(b) 全ての既存のパスファインダーの見直しと更新が必要である。

掲載されている内容の更新が必要なものがある。県外で発行された図書を含めて紹介した方が適している場合もある。また、全てのテーマのレイアウト（デザイン、文字の大きさ等）を統一したほうが体裁が良い（現状は不揃いで体裁が悪い）。

たとえば、「NPOとまちづくり」のパスファインダーは、

- ・ 左上に英語で「PDF Complete」などと表示されて見にくい、
- ・ 紹介されている図書の出版年が2013年までである、
- ・ すでに県立図書館での提供を終了した「マガジンプラス」が紹介されたままである、
- ・ 一部にWebサイトのリンク切れがある、

など、少なくともこのまま公開し続けていることは問題である。

新たに作成・追加することに注力するばかりではなく、既存のものの定期的なメンテナンスも必要である。